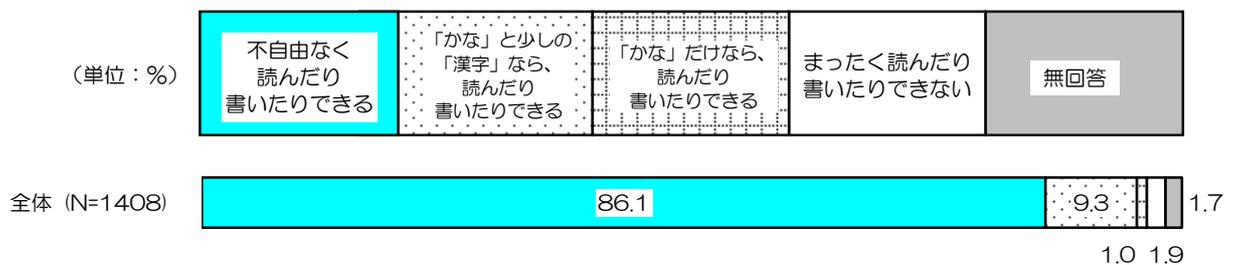


6 識字について

(1) 読み書きができる程度

問29. あなたは、どの程度、新聞を読んだり、手紙を書いたりできますか。(○は1つだけ)

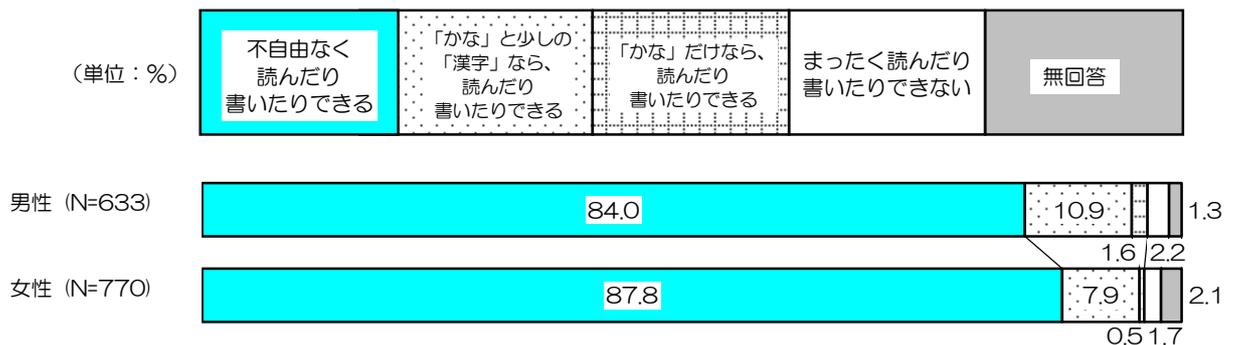
〔図表6-1 読み書きができる程度〕



【全体の考察】

読み書きができる程度をたずねた。「不自由なく読んだり書いたりできる」86.1%、「かな」と少しの「漢字」なら、読んだり書いたりできる」9.3%、「かな」だけなら、読んだり書いたりできる」1.0%、「まったく読んだり書いたりできない」1.9%である。(図表6-1)

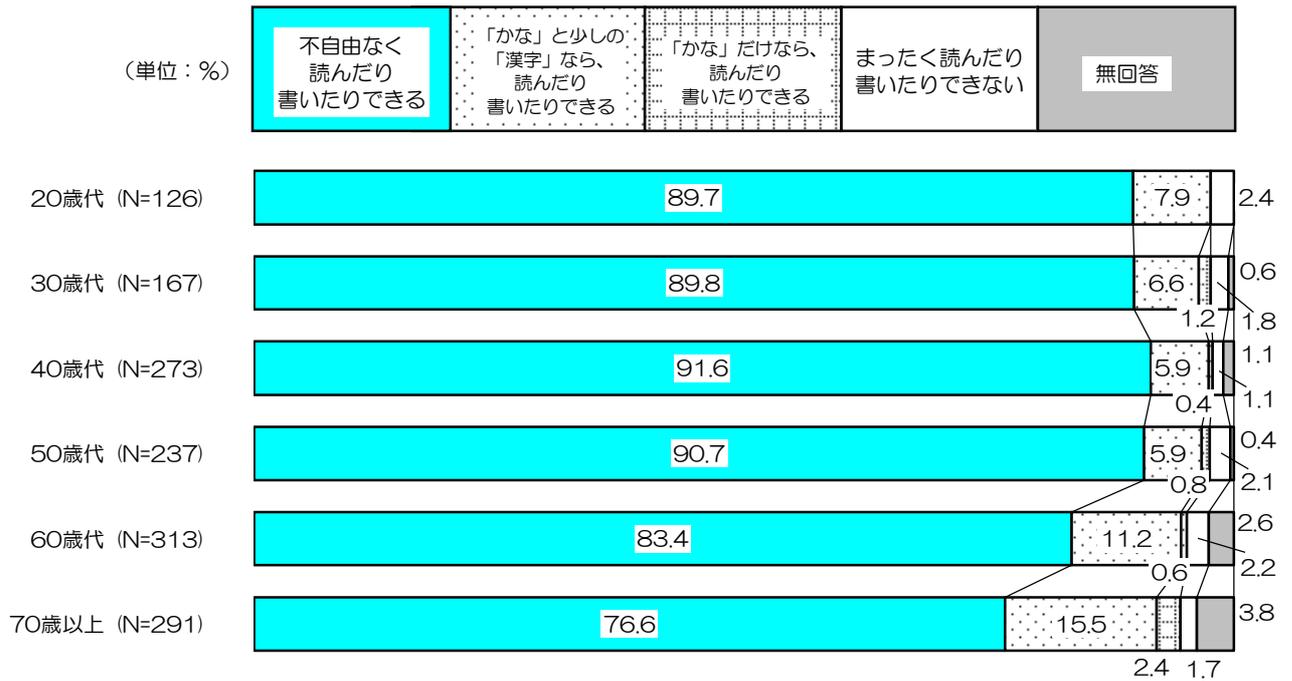
〔図表6-1-1 読み書きができる程度（性別）〕



【性別の考察】

性別にみると、「不自由なく読んだり書いたりできる」は『女性』が『男性』を3.8ポイント上回っており、「かな」と少しの「漢字」なら、読んだり書いたりできる」は『男性』が『女性』を3.0ポイント上回っている。「まったく読んだり書いたりできない」は『男性』2.2%、『女性』1.7%である。(図表6-1-1)

〔図表6-1-2 読み書きができる程度（年代別）〕



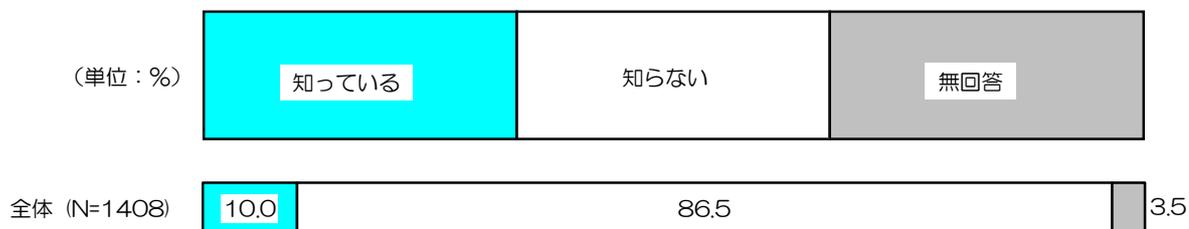
【年代別の考察】

年代別にみると、「不自由なく読んだり書いたりできる」は『60歳以上』で低く、『60歳代』で8割強、『70歳以上』で8割弱となっている。(図表6-1-2)

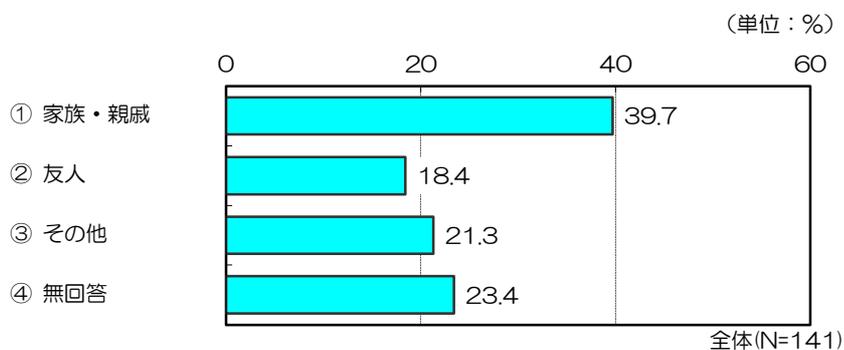
(2) 読み書きに不自由している方を知っているか

問30. あなたは、文字の読み書きに不自由されている方をご存知ですか。(〇は1つだけ)
【読み書きに不自由されている方をご存知の方】それはどなたですか。

〔図表6-2 読み書きに不自由している方を知っているか〕



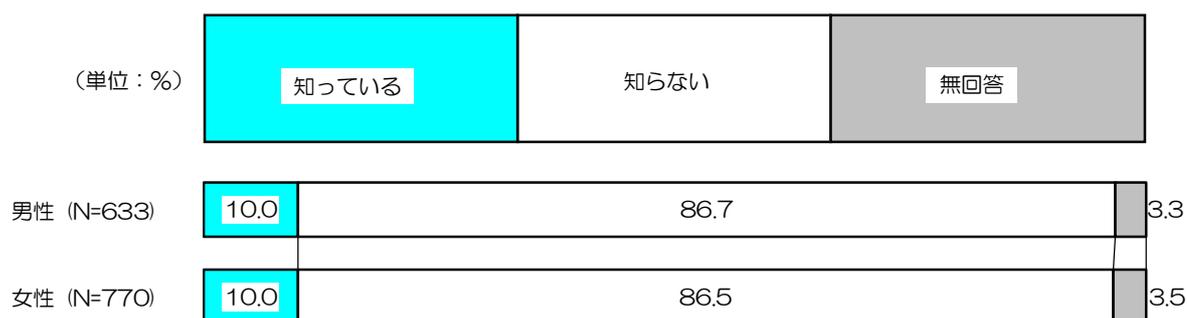
〔図表6-2a 読み書きに不自由している方〕



【全体の考察】

読み書きに不自由している方を知っているかをたずねた。「知っている」が10.0%で、「知らない」が86.5%となっている。読み書きに不自由している方をたずねたところ、『家族・親戚』が39.7%と最も高くなっている。(図表6-2、6-2a)

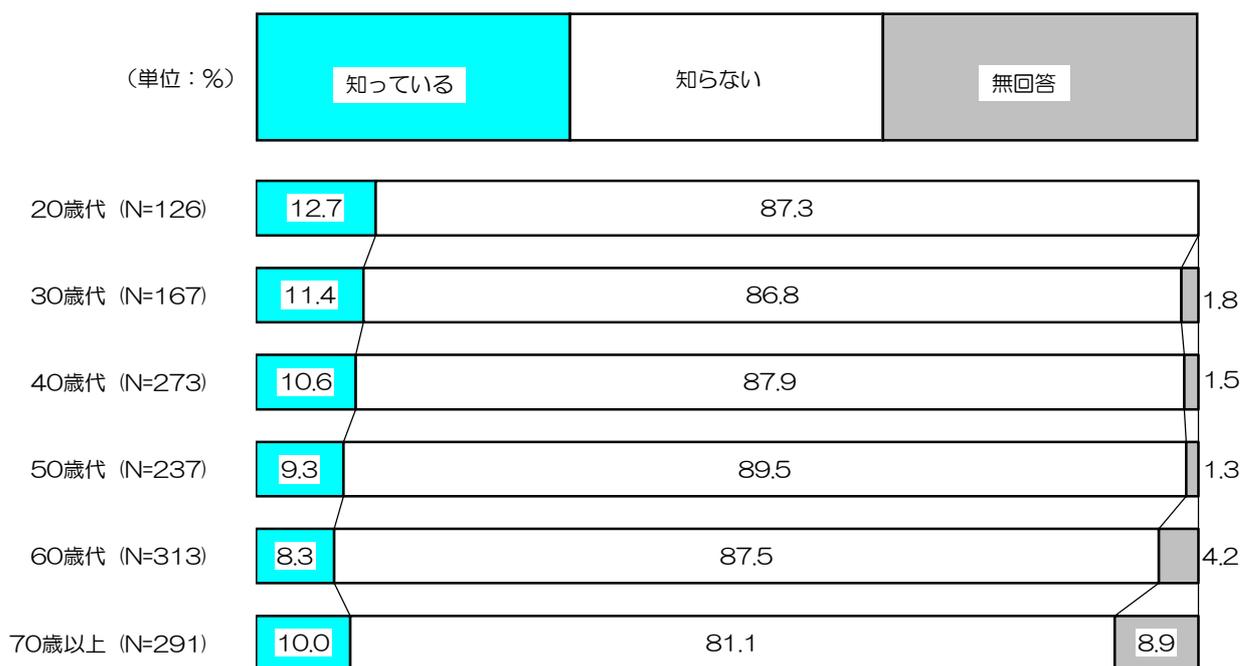
〔図表6-2-1 読み書きに不自由している方を知っているか（性別）〕



【性別の考察】

性別にみると、男女差はほとんどみられない。(図表 6-2-1)

〔図表6-2-2 読み書きに不自由している方を知っているか（年代別）〕



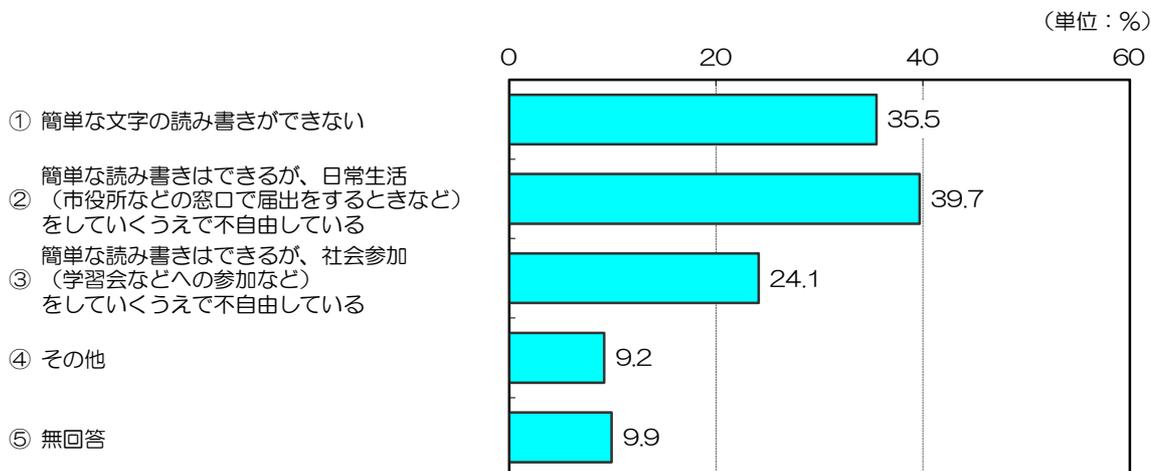
【年代別の考察】

年代別にみると、「知っている」は『20歳代』で最も高く、最も低い『60歳代』を4.4ポイント上回っている。(図表 6-2-2)

(3) 読み書きに不自由している方の識字程度

問30-1. 【読み書きに不自由されている方をご存知の方】その方はどのような状態ですか。
(〇はいくつでも)

〔図表6-3 読み書きに不自由している方の識字程度【複数回答】〕

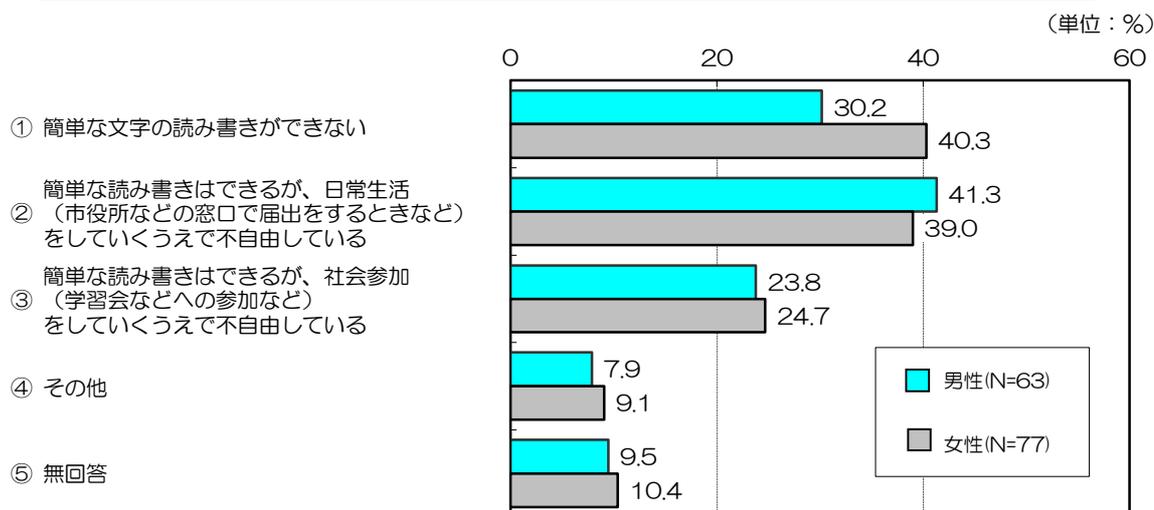


全体(N=141)

【全体の考察】

読み書きに不自由している方の識字程度をたずねた。「②簡単な読み書きはできるが、日常生活をしていくうえで不自由している」が39.7%で最も高く、次いで、「①簡単な文字の読み書きができない」35.5%、「③簡単な読み書きはできるが、社会参加をしていくうえで不自由している」24.1%となっている。(図表6-3)

〔図表6-3-1 読み書きに不自由している方の識字程度【複数回答】(性別)〕



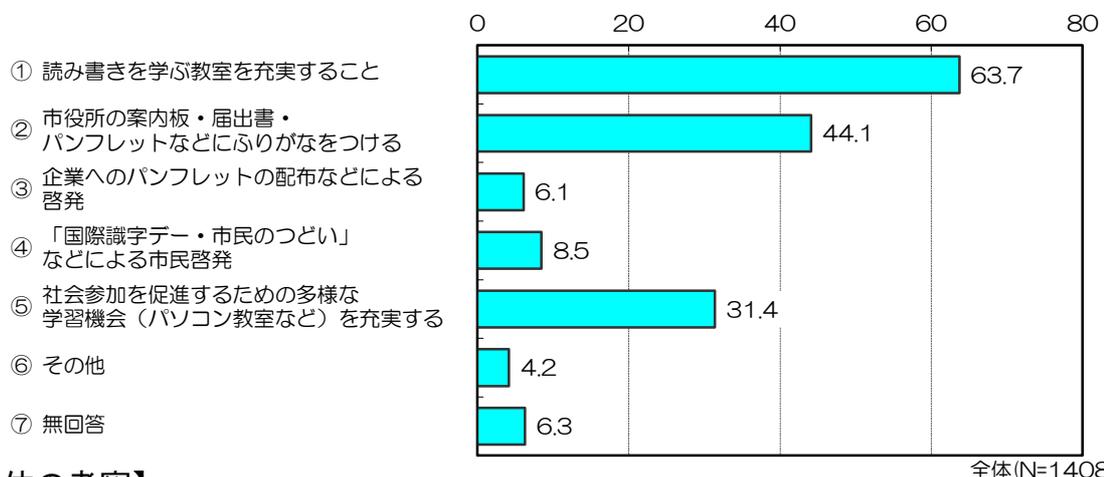
【性別の考察】

性別にみると、「①簡単な文字の読み書きができない」は『女性』が『男性』を10.1ポイント上回っている。(図表6-3-1)

(4) 識字問題に対して市が取り組むべきこと

問3 1. 読み書きに不自由をされている方のために、あなたは、今後、市として取り組むべきは、どのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

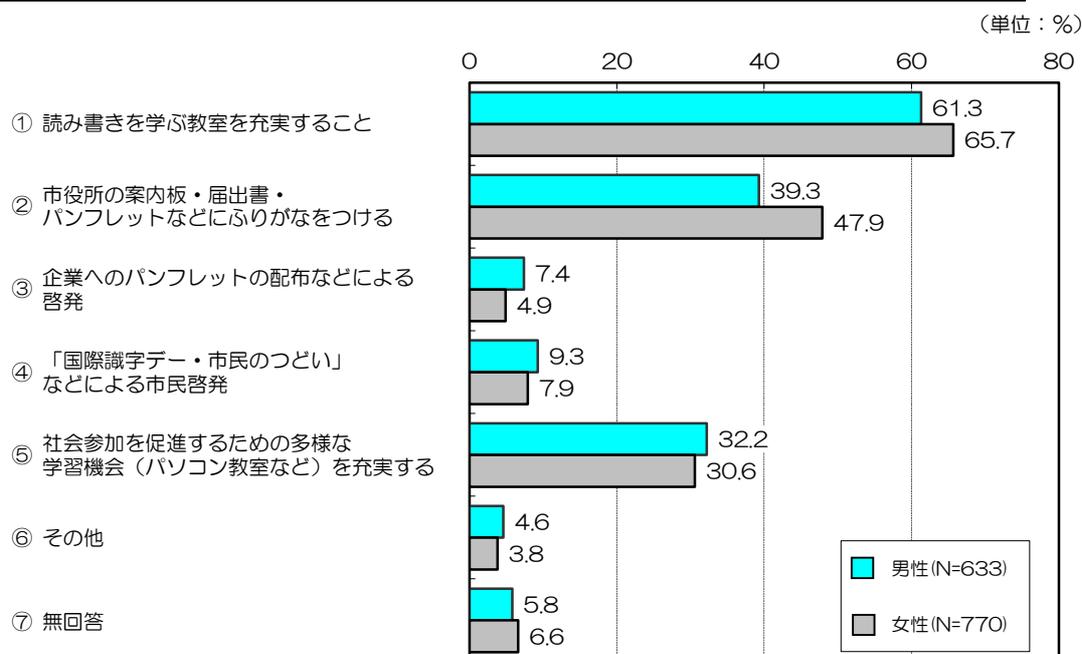
〔図表6-4 識字問題に対して市が取り組むべきこと〕【複数回答】 (単位：%)



【全体の考察】

識字問題に対して市が取り組むべきことをたずねた。「①読み書きを学ぶ教室を充実すること」が63.7%で最も高く、次いで、「②市役所の案内板・届出書・パンフレットなどにふりがなをつける」44.1%、「⑤社会参加を促進するための多様な学習機会を充実する」31.4%となっている。(図表6-4)

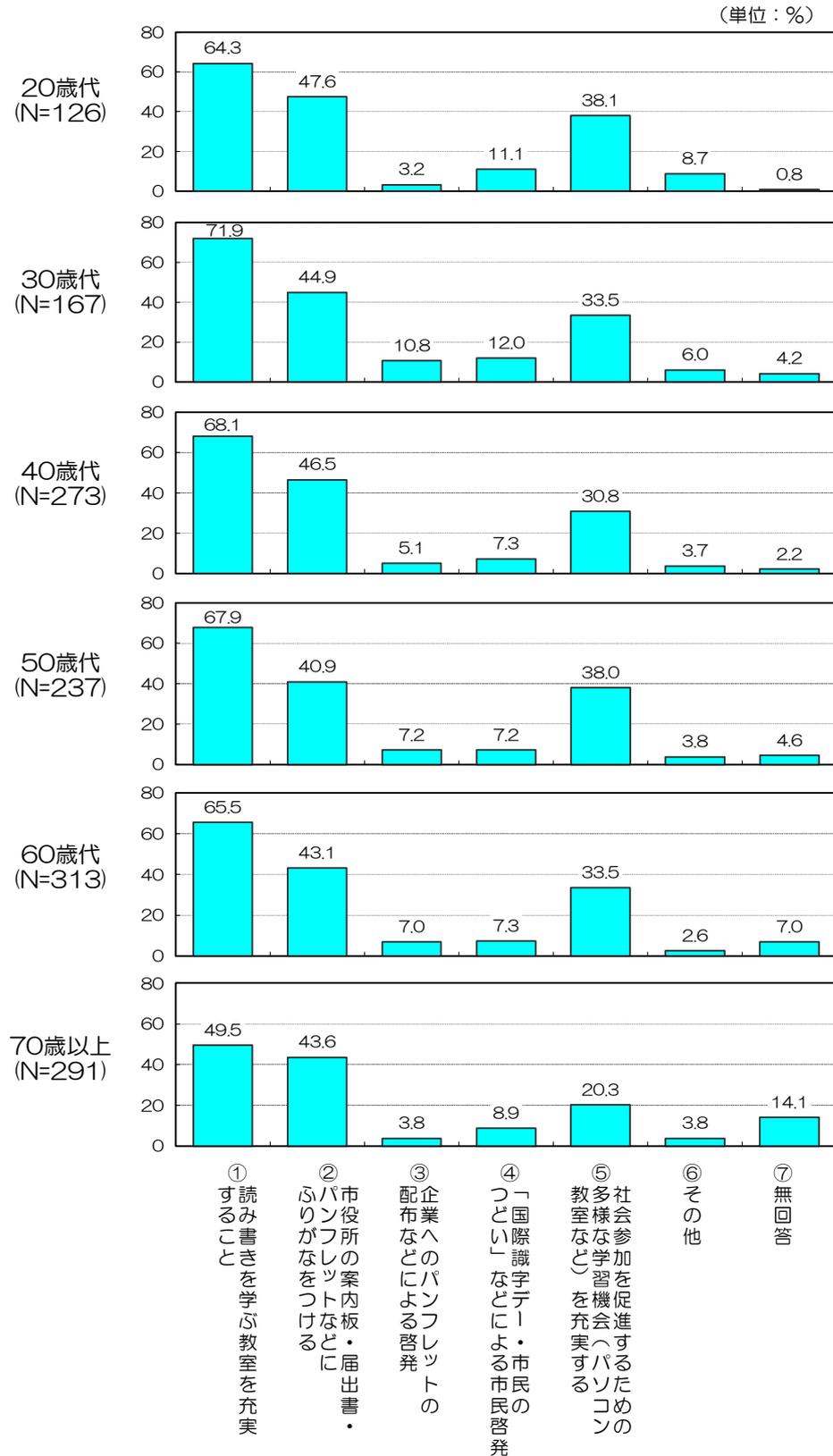
〔図表6-4-1 識字問題に対して市が取り組むべきこと【複数回答】(性別)〕



【性別の考察】

性別にみると、「②市役所の案内板・届出書・パンフレットなどにふりがなをつける」は『女性』が『男性』を8.6ポイント上回っている。(図表6-4-1)

〔図表6-4-2 識字問題に対して市が取り組むべきこと【複数回答】（年代別）〕



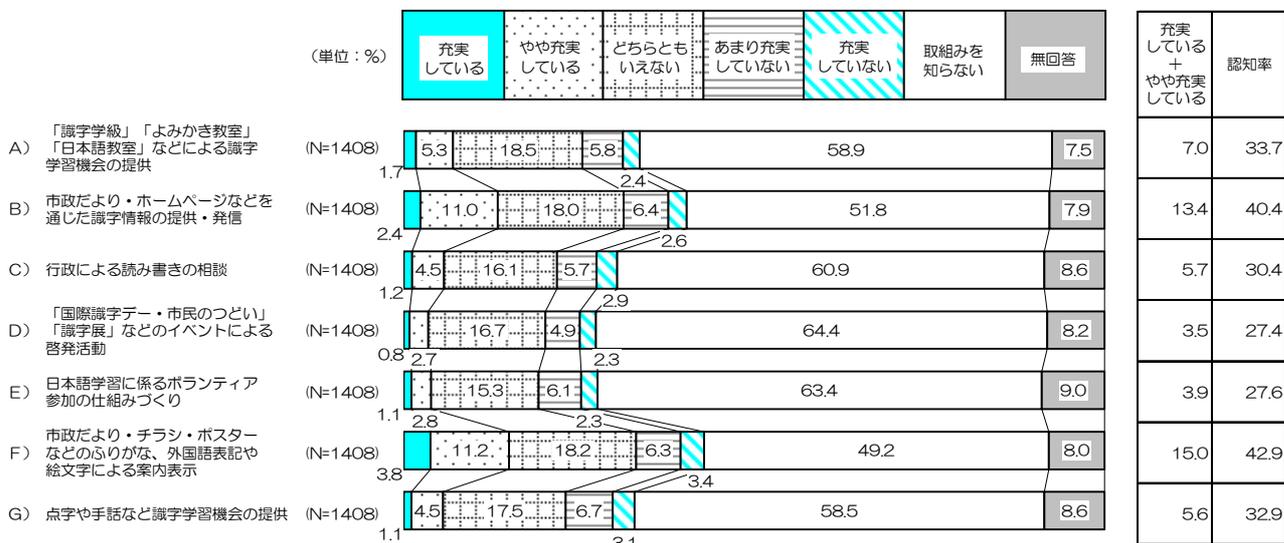
【年代別の考察】

年代別にみると、「①読み書きを学ぶ教室を充実すること」は『30歳代』で最も高く、最も低い『70歳代』を22.4ポイント上回っている。（図表6-4-2）

(5) 識字問題への取組みの充実度

問3 2. 東大阪市が実施している識字問題への取組みは、どの程度、充実していると思いますか。(〇は1つだけ)

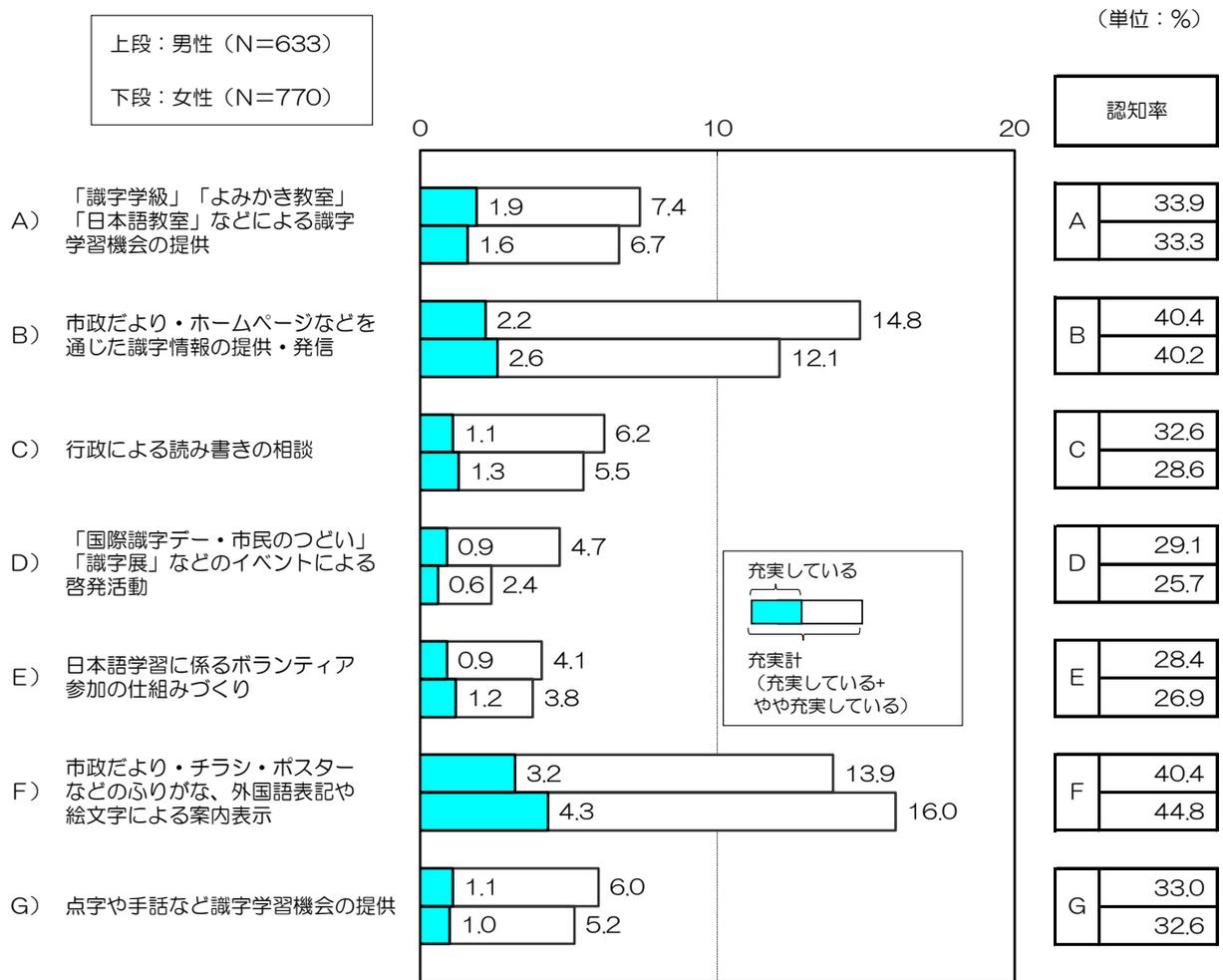
〔図表6-5 識字問題への取組みの充実度〕



【全体の考察】

識字問題への取組みの充実度をたずねた。「充実している計」（「充実している」＋「やや充実している」）は「F）市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示」で1割半と最も高く、「B）市政だより・ホームページなどを通じた識字情報の提供・発信」が1割強で続き、認知率も4割をこえている。他の項目の認知率はいずれも3割前後である。（図表6-5）

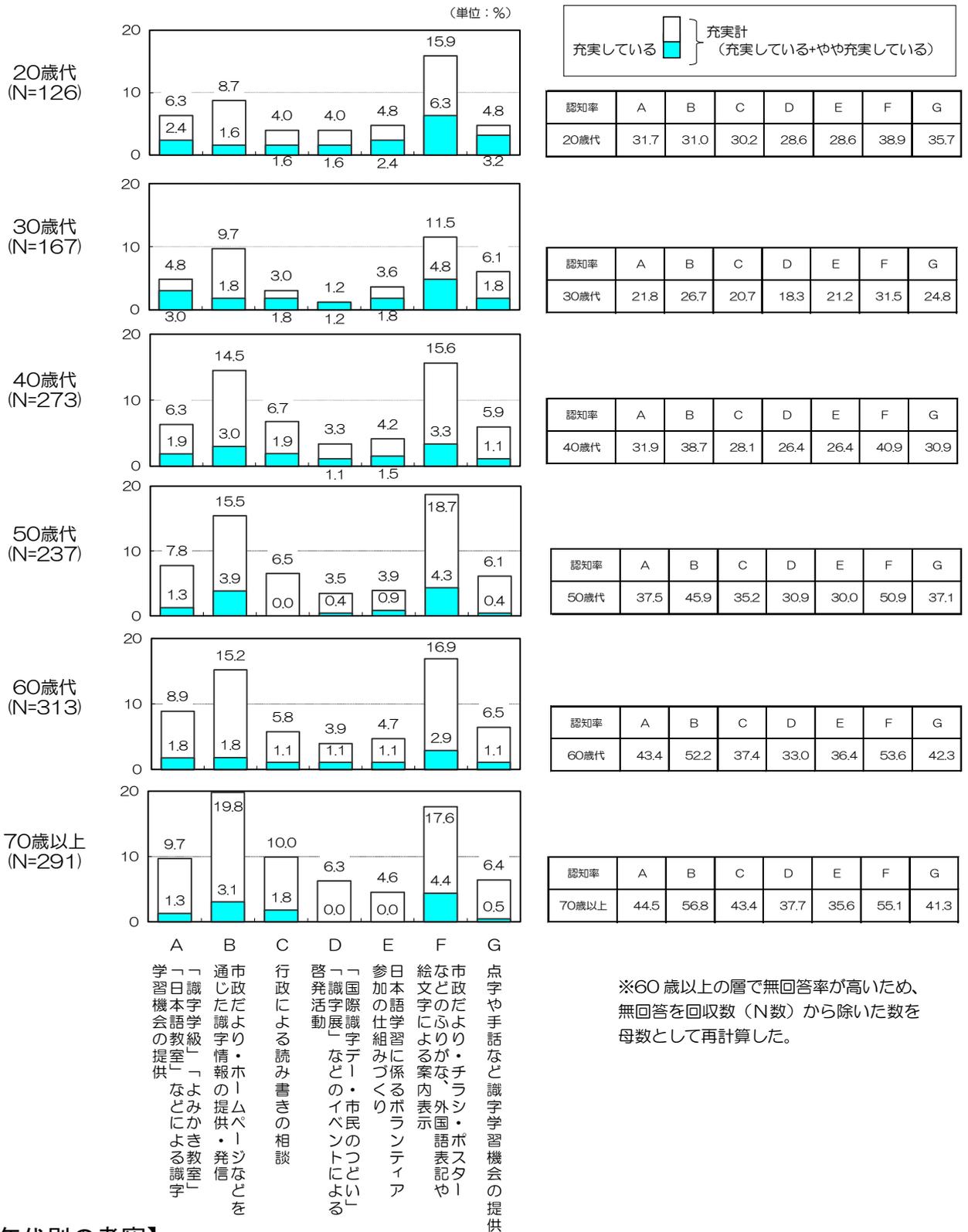
〔図表6-5-1 識字問題への取組みの充実度（性別）〕



【性別の考察】

性別にみると、大きな男女差は見られないが、“充実している計”は「B）市政だより・ホームページなどを通じた識字情報の提供・発信」で『男性』が『女性』を2.7ポイント、「F）市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示」で『女性』が『男性』を2.1ポイント上回っている。認知率は「F）市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示」を除いたいずれの項目でも『男性』が『女性』を上回っている。（図表6-5-1）

〔図表6-5-2 識字問題への取組みの充実度（年代別）〕



※60歳以上の層で無回答率が高いため、無回答を回収数（N数）から除いた数を母数として再計算した。

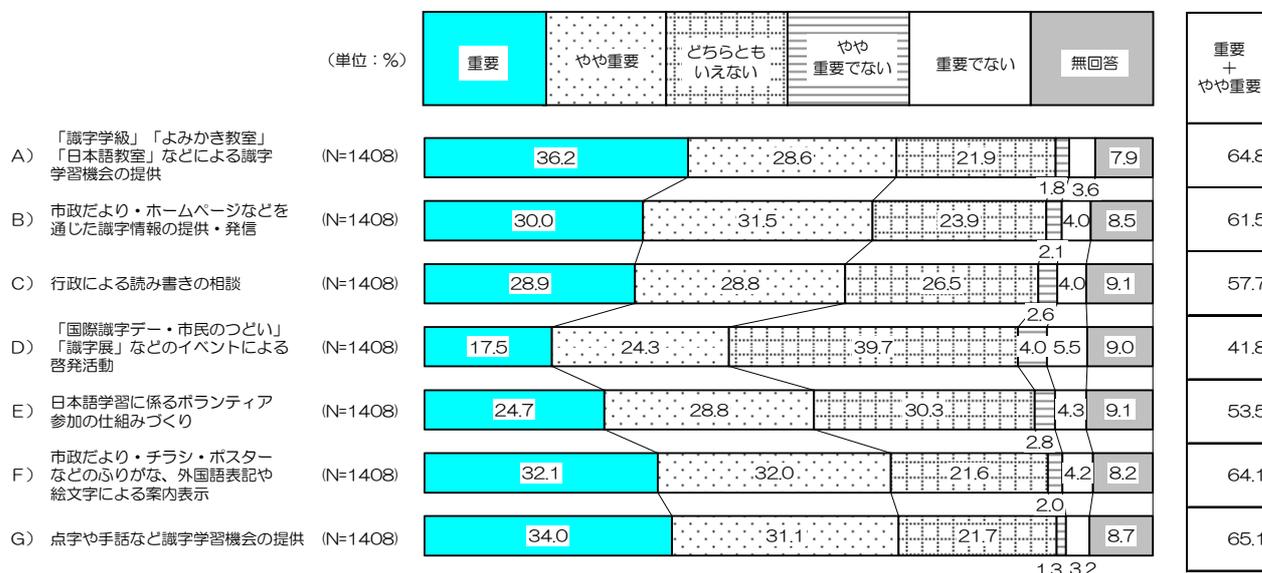
【年代別の考察】

年代別にみると、「F）市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示」で「充実している」が『20歳代』で6.3%と最も高く、最も低い『60歳代』を3.4ポイント上回っている。“充実している計”でみると、「A）「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供」「B）市政だより・ホームページなどを通じた識字情報の提供・発信」「C）行政による読み書きの相談」「D）「国際識字デー」・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動」で『70歳以上』が最も高くなっている。（図表6-5-2）

(6) 識字問題への取組みの重要度

問33. それぞれの取組みについて、あなたはどの程度、重要だとお考えですか。
(○は1つだけ)

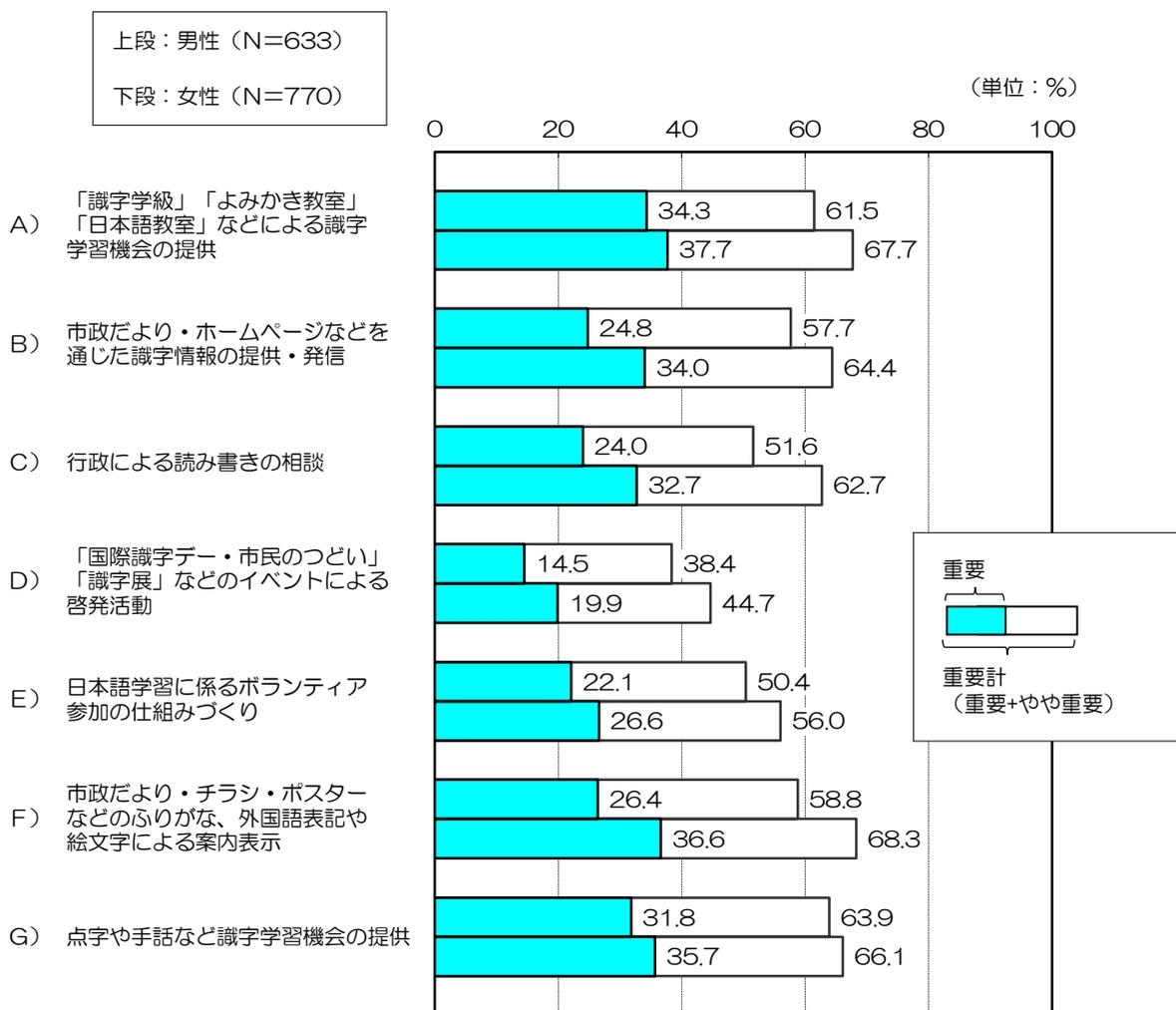
〔図表6-6 識字問題への取組みの重要度〕



【全体の考察】

識字問題への取組みの重要度をたずねた。「D)「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動」を除いたいずれの項目でも“重要計”(「重要」+「やや重要」)が5割をこえている。「重要」では「A)「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供」(36.2%)が最も高く、“重要計”では「G)点字や手話など識字学習機会の提供」(65.1%)が最も高くなっている。(図表6-6)

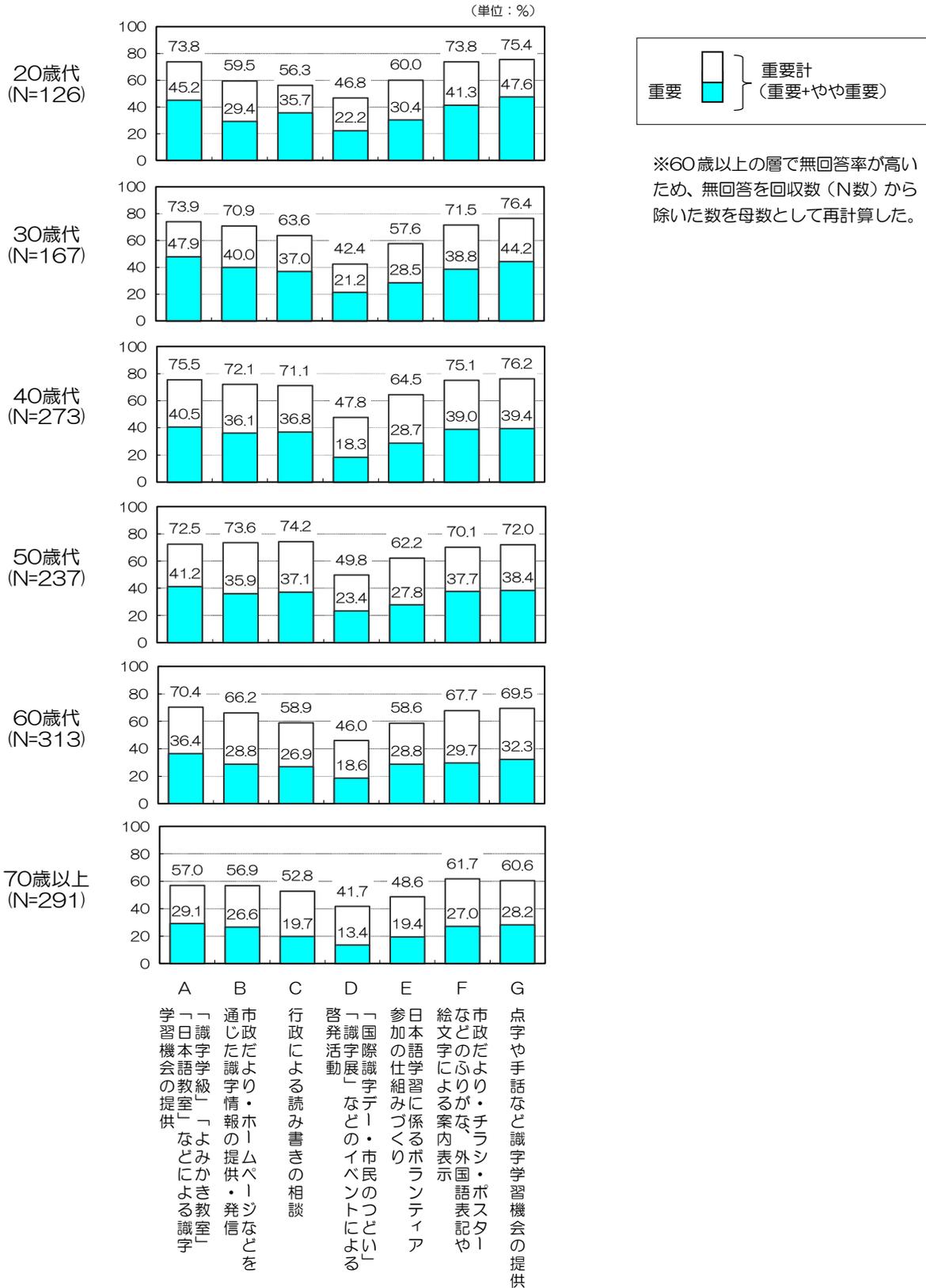
〔図表6-6-1 識字問題への取組みの重要度（性別）〕



【性別の考察】

性別にみると、「重要」・重要計ともにすべての項目で『女性』が『男性』を上回っている。特に「重要」では「F) 市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示」で10.2ポイント、重要計では「C) 行政による読み書きの相談」で11.1ポイント『女性』が『男性』を上回っている（図表6-6-1）

〔図表6-6-2 識字問題への取組みの重要度（年代別）〕



【年代別の考察】

年代別にみると、重要計は『40～50 歳代』で高く、『60 歳以上』で低い傾向がみられる。「重要」で見ると若年層も高く、「G) 点字や手話など識字学習機会の提供」では、最も高い『20 歳代』が最も低い『70 歳以上』を 19.4 ポイント上回っている。(図表 6-6-2)

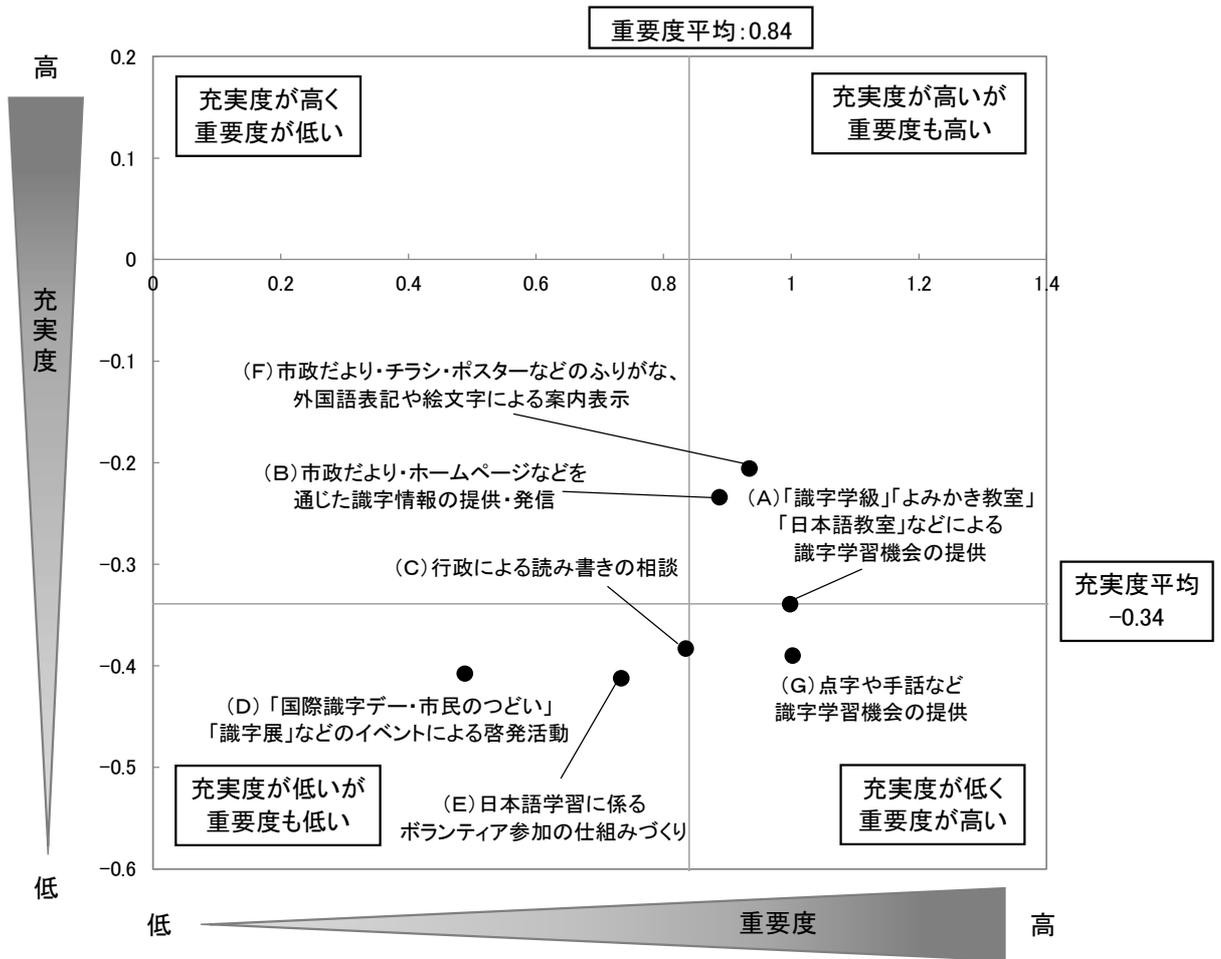
(7) 識字問題への取組みの充実度と重要度の関係

問32. 東大阪市が実施している識字問題への取組みは、どの程度、充実していると思いますか。

問33. それぞれの取組みについて、あなたはどの程度、重要だとお考えですか。

〔図表6-7 識字問題への取組みの充実度と重要度の関係〕

【充実度と重要度の加重平均の散布図】



※加重平均値: 個々の回答率を一律に扱わず、重み付けして求めた平均値

「充実・重要」×2
 「やや充実・やや重要」×1
 「どちらともいえない」×0
 「取り組みを知らない」×-0.5、
 「あまり充実していない・あまり重要でない」×-1
 「充実していない・重要でない」×-2

【考察】

識字問題への取組みの充実度と重要度の関係をみると、重要度と充実度がいずれも高い取組みは「(B) 市政だより・ホームページなどを通じた識字情報の提供・発信」「(F) 市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記や絵文字による案内表示」となっている。

一方、重要度が高いと認識されているものの、充実度の評価が低い「(A) 「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供」「(C) 行政による読み書きの相談」「(G) 点字や手話など識字学習機会の提供」は、取組みの充実や認知の拡大が求められる分野となっている。(図表6-7)